
 各地よりのたより

紀伊支部十二月例会

◎本會昭和十四年十二月例会は、十二月16日、豫定の通り名草小學校（海草郡紀三井寺町）に於いて午後6時より島田善村氏司會の下に開催。協會側より阪田、野村、山本（靜）3名、高高側としては、山本君以外に、新谷雅信君出席。それに和歌山「星の會」會員4名、名草校教員約10名、その他生徒（高等科）を合して約50名參集し、小生望遠鏡に關して約1時間坐談的にしやべり、8時過ぎより空も漸く暗れたので、遊星（土、火、木、月等）及び二重星、星霧等の二三を觀望、ついで9時より10時迄再び職員室にて茶をのみつつ、スト1ブを圍んで雜談にふけり、22時過散會した。尙、當日、小槇支部長は、學校の方に展覽會ありしたため、惜くも不參であつた。

◎一月例会は、尙話は具體化してゐないが、中旬阪田晃氏司會の下に、那智郡粉河町にて開催の筈。（日は未定）

◎一月2日、一年ぶりに小槇支部長を金屋に訪れ、紀伊支部の將來に關して、種々企圖を懇談す。（一月8日 野村記）

 編輯後記

わが日本のみならず、實に全世界の非常時局で、戰亂のため、學術界や一般知識階級、インテリ層などは、何所も不振を極め、學會なども、取り止めや中止があり、恐慌を來してゐる。英國の有名な學術雜誌 Science Progress も、遂に、編輯不能となつて、去る10月號で廢刊して了つた。こうした渦卷きの中にあつて、本會は相變らず重要な會員が應召したりして、緊張してゐる中に、しかし、案外な方面から入會者があり、又、觀測部員も増して行く。景氣の好い話である。

今の第20巻の初め(11月號)から活字の組み方を大改良して、紙數は不變であるが、内容は正味2割強も増したことになり、今までの50ページに相當するものとなつた。しかし、一方に於いて、諸方面から興味ある原稿が澤山集まつて來るので、やはり、とても之れだけでは頁數が未だ未だ足りない。編輯部の年來の希望であるが、是非、100ページの天文雜誌にしたい。

諸方から投稿される原稿の中に、普通のたて組みの原稿用紙を使用してゐられる人が多いので、閉口する。言ふまでもなく、本誌は横組み印刷なので、原稿も亦、是非に横書きと願ひたい。標準は一ページが35字詰めの、35行です。

しかし、止むを得なければ、原稿用紙は市販の有りふれたものでも宜しい。

尚ほ、毎號に附録として入れてゐる黄色紙の、4號活字の立て書き記事も、諸方面から投稿を歓迎します。しかし、此の欄は高尚な天文趣味の欄なので、原稿は編集部で取捨を可なり嚴重にやりますから、あらかじめ御承知下さい。

本誌も、本年を以つて20巻を終らんとしてゐるし、本會としても、創立滿20年を祝はんとして、目下いろいろ計畫が進められてゐる。時機は皇紀2600年の目出たい時である。本誌としては、是非此の際、第1巻から第20巻までの全部にわたる“總目次”と“總索引”を作製し、會員に配布したい希望である。前後20ヶ年にわたる本誌は、其の内容が天文數理の各方面にわたつてゐるので良い索引さへ作れば、本誌全體は實に立派な天文學の百科全書として使用し得る手引きとなるのである。尤も、此の“總目次”と“總索引”を作製し、發行するためには、200頁の特輯號となり、實費600圓を必要とする。記念事業として、之だけの資金が至急に欲しい。

尚ほ、序でに、吾々は、此の際、本會會員の名簿を作りたい。しかし、之れは決して單に現在會員のみの名簿では満足しない。本會の創立以來、今日まで20ヶ年の間に、いろんな個人的な都合によつて、退會した人もあり、又、死去した惜しい會員もある。此等の人を全部合はせると、まづ大體一萬人はあると思ふ。此の一萬人の中で、死んだ人は別であるが、生存者は、かりに今、其れが會員ではなくても、一旦會員であつた人である以上、今でも、やはり天文を趣味として有つてゐる人であらうと思ふ。故に、之れ等の人には廣い意味に於いては、やはり、吾人の同志であり、又、何時かは吾々の會に復歸して來る人であると思ふ。現に、今までにも、火星が近づいたり、大流星雨が現はれたり、太陽黒點が世上の話題に上つたり、其の他、いろいろ、天文の知識が、偶然にも世間で必要になる場合には、思ひがけ無い方面から、古い天文ファンが現はれて、輿論を指導して下さる場合が可なり多い。日食の場合にも、北海道あたりで、吾人は古い會員を澤山見つけた。改曆問題が起つた場合にも、太陽曆や太陰曆の利害得失について、いろいろ世論を指導される方も、多くは吾々の同志である。——かうしたかくれた會員も加へて、一萬人の會員名簿を作つて見たい。此の名簿によつて、吾々は、全國、否、全世界至る所、同志を求め、“ア！ あの人でも天文ファンなのか!?”と、驚きつい、喜び合ふことが出来る。大陸各地への發展途上にも、かうした體驗は多い。——この名簿の作製のためにも、約300圓は欲しいと思ふ。(X. Y. Z. 生記)